板書計画

　平家物語　「敦盛の最期」

めあて　平家物語に描かれているものの見方・考え方をとらえよう。

これまでの学習からわかったこと

　・諸行無常　盛者必衰

　・命令は絶対　失敗したら死ぬ覚悟

　・命より名誉や誇り

課題　このあと直実はどうしたと考えられるか。その根拠は何か。

【殺す】　　　　　　　　　　　　　　　　　　【殺さない】

・手柄がほしい　　　　　　　　　　　　　・息子と同じ年頃

・五十騎迫っている　　　　　　　　　　・息子けがをしただけでも心配

・武士だから　　　　　　　　　　　　　　　・助けたい

・情けはかけない　　　　　　　　　　　　・勝ち負けには関係ない

　　　　　武士として　　　　　　　　　　　　　　　　親として

まとめ

　心の中（理由）　　　　　　　　　→　　　　　　直実の発言

・息子と同じに見えるから　　　　　　　　　かわいそうだが、逃がすことは

　なんとか逃がしてあげたい　　　　　　　　できない。すまん。

・武士として敵を逃がすことは恥

振り返り

武士として、君主の命令は絶対であり命がけであることや、命より名誉や誇りを大切にする考え方は今とは違うが、若い青年を息子と同じくらいの年頃だから助けたい、守りたいと考える親としての気持ちは、今と変わらないということがわかった。